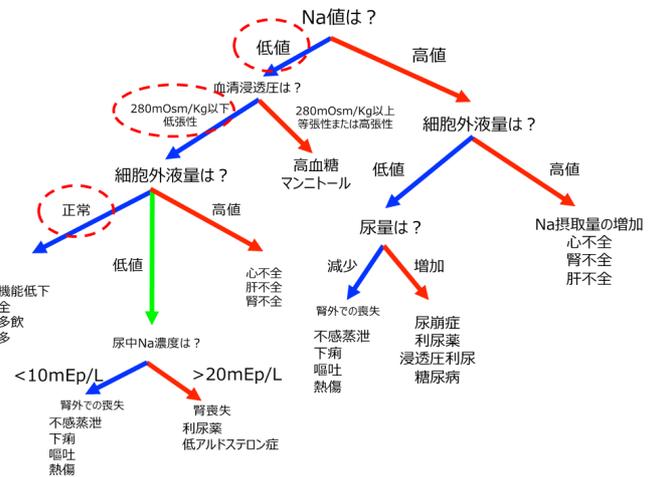


評価のポイント

CL-1.看護実践能力：ニーズをとらえる力
 [19-1.3] 検査データの判読② (生化学-part 2)

30歳男性。以前より幻覚妄想があり、精神神経科への受診歴がある。1ヶ月前より多量の飲水をするようになったため、母親が心配になり当院へ受診する。受信時口腔の乾燥はなく、皮膚も乾燥所見や浮腫もない。質問にYES・NOで受け答えはできるが、意識が混濁している。このデータで判断されることはなにか。

	値	単位		値	単位
WBC	7400	/ μ L	TP	6.4	g/dL
RBC	500	$\times 10^4$ / μ L	Alb	3.8	g/dL
Hb	15.2	g/dL	BS	108	mg/dL
Ht	40	%	AST	20	IU/L
MCV	80	fL	ALT	30	IU/L
MCH	28	pg	LDH	203	IU/L
MCHC	32	%	ALP	248	IU/L
Ret	1	%	γ GTP	30	IU/L
Plt	33	$\times 10^4$ / μ L	T-Bil	1.2	mg/dL
Lymph	28	%	BUN	13	mg/dL
Mono	5	%	Cre	0.5	mg/dL
Neut	66	%	Amy	78	IU/L
Eos	0.1	%	CRP	1.2	mg/dL
Baso	0	%	Na	118 ↓	mEq/L
			K	4	mEq/L



図は、配布資料15参照。

Naの値は低値を示している。

血漿浸透圧は246mOsm/L

皮膚は浮腫は無く乾燥所見はないとの情報があり、細胞外液量は正常と判断できる。

結論

患者の状況から、心因性の多飲が予測される。そのため、自宅での生活状況を確認し、現在服用している内服薬の服用状況、最近の言動や、行動の変容の有無を確認する。また必要時には、精神神経科との情報共有が必要である。必要時リエゾン看護師を活用する。